KIORITZ

取 扱 説 明 書

共立動力噴霧機

AHP25B
AHP35B
AHP45B

AHPE350B
AHPE450B

⚠ 警　告

ご使用前に、必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。
取扱説明書の指示内容を守ってください。
守らなかった場合は、死亡または重傷事故を起こす恐れがあります。

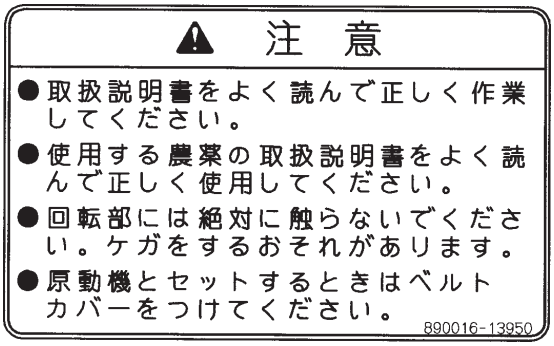
⚠ 注　意

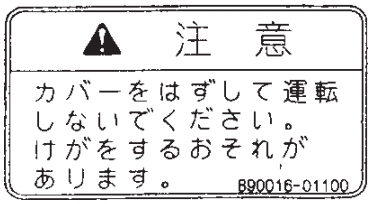
- **この取扱説明書は、いつでも読めるように、紛失、汚損の恐れのない、すぐ取出せる所に必ず保管してください。**
- **この説明書が損傷により読めなくなった場合、紛失した場合は、販売店より新しく取扱説明書を購入し、常に参照できるよう保管してください。**
- **この取扱説明書で解説している機械を貸与する場合、借りて作業をする人に、この取扱説明書を読ませ、充分な指示、訓練を行なった後、この取扱説明書とともに機械を貸与してください。**
- **製品を譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡しください。**
- **ご不明なことやお気付きのことがございましたら、販売店にご相談ください。**

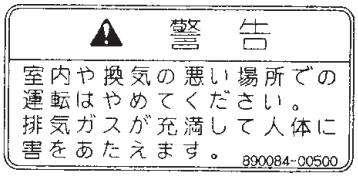
警告表示ラベルについて

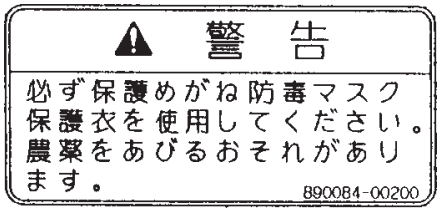
- **この取扱説明書で解説されている機械には、下記の「警告表示ラベル」が貼付してあります。ご使用前に「警告表示ラベルの位置」で確認し、ラベルの意味を理解してください。**
- **ラベルが摩滅したり破損して内容が確認できなくなった場合や、はがれて紛失した場合は、販売店から新しくラベルを購入し、「警告表示ラベルの位置」に指示してある箇所に貼り、常にラベルが確認できる状態を維持してください。**

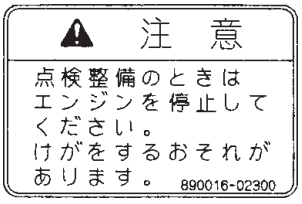
警告表示ラベル











はじめに

共立動力噴霧機をお買い上げいただき、ありがとうございます。

- この動力噴霧機をこの取扱説明書に書かれている目的以外に使用しないでください。
- この取扱説明書には、組立や操作、整備に必要な事項が書かれていますので正しく効果的な製品の取扱いができるよう、よく読んで理解してください。

目 次

はじめに …… 1
各部の名称 …… 2
正しい作業のために …… 9
運転前の準備 …… 14
運　転 …… 17
噴霧作業の開始・停止 …… 20
輸送・移動時の注意 …… 21
点検・整備 …… 21
長期保管 …… 23
ご利用の手引き …… 24
故障対策 …… 26
仕　様 …… 28

・説明書の内容は製品の標準装備を基本に構成していますが、特別注文品（オプション）やアクセサリを使用する場合も含まれます。
・本書に記載されている仕様や解説あるいは説明のために例にあげられている図や内容は、改良のため予告なしに変更することがあります。
・単位はＳＩ単位を使用しています。（　）内は参考値ですので数%の換算誤差がある場合もあります。

⚠ 警　告

- 正しい作業のための警告・注意を注意深くよく読んで理解すること。
- 正確で正しい操作のために、この取扱説明書を必ず読むこと。

⚠ 危　険

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものです。

丛に左斜線の入ったこの記号は、表示されているものが全て禁止されていることを表わします。

⚠ 警　告

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があるものです。

重　要

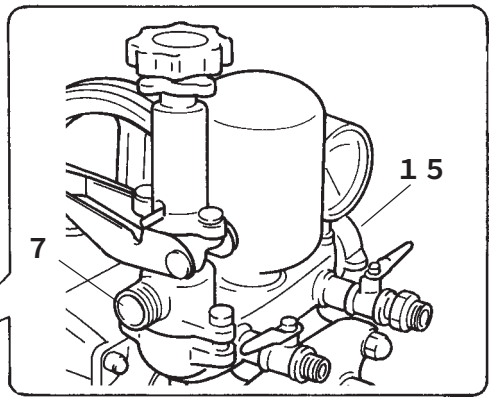
重要として囲まれた文章は、この取扱説明書で説明されている機械の使用、点検、保守・保管に関する注意事項です。

⚠ 注　意

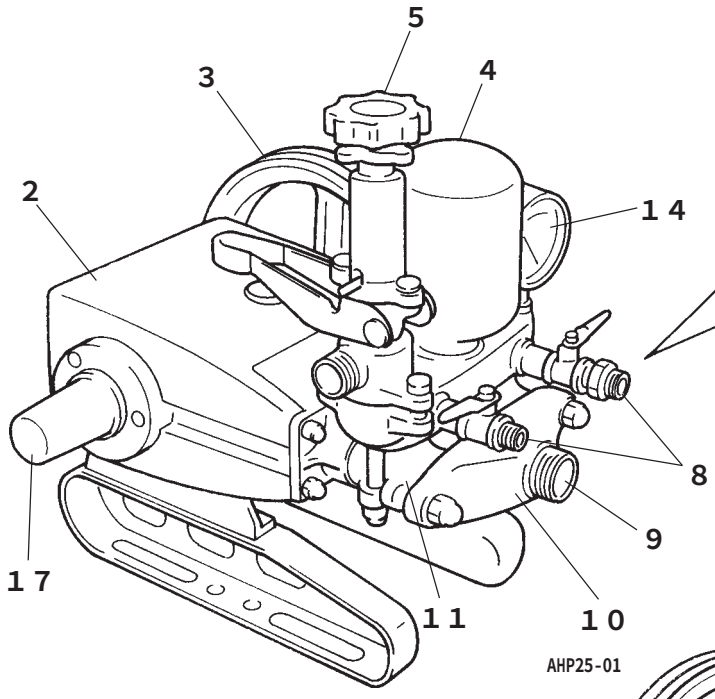
その警告に従わなかった場合、ケガを負う恐れのあるものです。

各部の名称
(AHP25B / AHP35B / AHP45B)

ＡＨＰ３５Ｂ／ＡＨＰ４５Ｂの場合

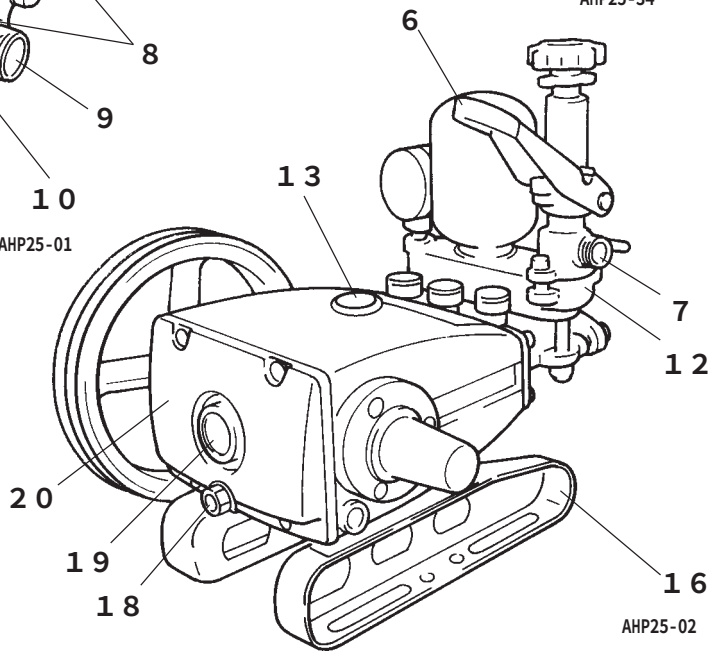


AHP25-34

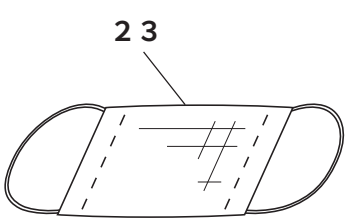


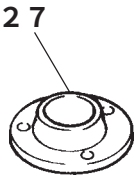
AHP25-01



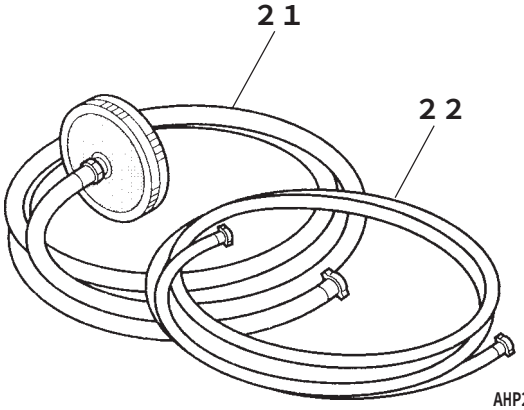


AHP25-02

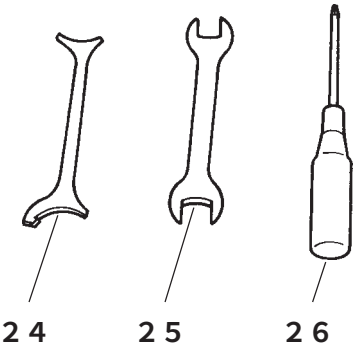




AHP25-27



AHP25-33



AHP25-03

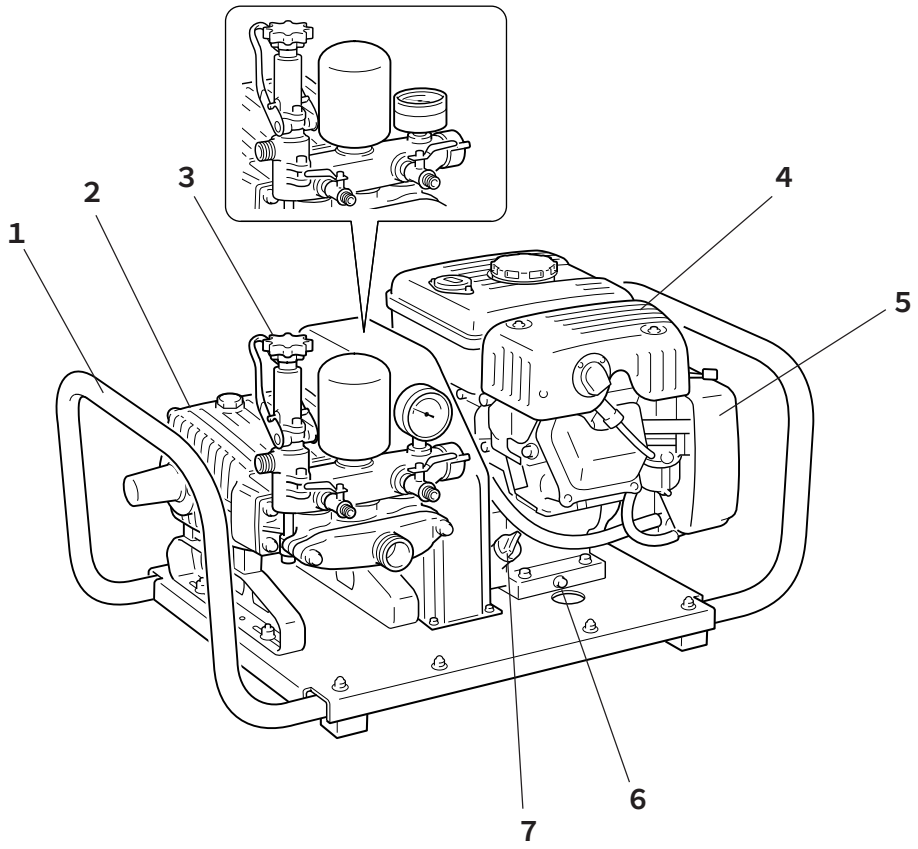
各部の名称

１．取扱説明書 ―― 機械をお求めになったとき必ず付属しています。
機械を使用する前に必ず読んでください。また正しい操作方法を再度確認する場合に備え、すぐ取出せる場所に必ず保管してください。
２．クランクケース ―― 動力の回転運動を往復運動に変え、プランジャに伝えます。
３．プーリ ―― 動力を受けて噴霧機を回すためのものです。
４．空気室 ―― 中に空気があり､動力噴霧機の脈動を少なくするためのものです。
５．調圧ネジ ―― 動力噴霧機の吐出圧力を調整するものです。
６．調圧レバー ―― レバーを上げると無圧状態になり､下げると加圧状態になります。
７．余水口 ―― 余水ホースを接続します。
８．吐出口 ―― 散布ホースを接続し､コックを開くと薬液などが送り込まれます。
９．吸水口 ―― 吸水ホースを接続します。
１０．吸水弁室 ―― 吸水弁が組み込まれている室です。
１１．シリンダ ―― 吸込まれた薬液などを加圧します。
１２．吐出弁室 ―― 吐出弁が組込まれている室です。
１３．クランクケース注油口 ―― クランクケース内にオイルを入れる所です。
１４．圧力計 ―― 動力噴霧機の圧力を表示します。
１５．灌水口 ―― 灌水時にはプラグを外して使用します。
（ＡＨＰ３５Ｂ、ＡＨＰ４５Ｂのみ）
１６．架台 ―― 動力源とセットする際、この部分をネジなどで固定します。
１７．クランク軸カバー ―― クランク軸のカバーで回転部に触れるのを防ぎます。
また､攪拌器を接続する場合このカバーを外し､付属のオイルシールカバーと交換します。
１８．ドレン ―― クランクケース内のオイルを抜く所です。
１９．オイルゲージ ―― クランクケース内のオイル量および汚れを見る所です。
２０．クランクケース後ふた ―― クランク内部を密閉するふたです。
２１．吸水ホース ―― ストレーナを接続し、薬液を吸込むホースです。
２２．余水ホース ―― 余った薬液をタンクに戻すホースです。
２３．防除マスク ―― 農薬の吸込みを防止するマスクです。
２４．グランドナットスパナ ―― Ｖパッキンを締付けるときに使用します。
２５．１２×１４両口スパナ ―― エンジンをセットするときに使用します。
２６．プラスドライバ ―― クランクケース後ふたを開けるのに使用します。
２７．オイルシールカバー ―― 攪拌器を使用する場合クランク軸カバーと交換します。

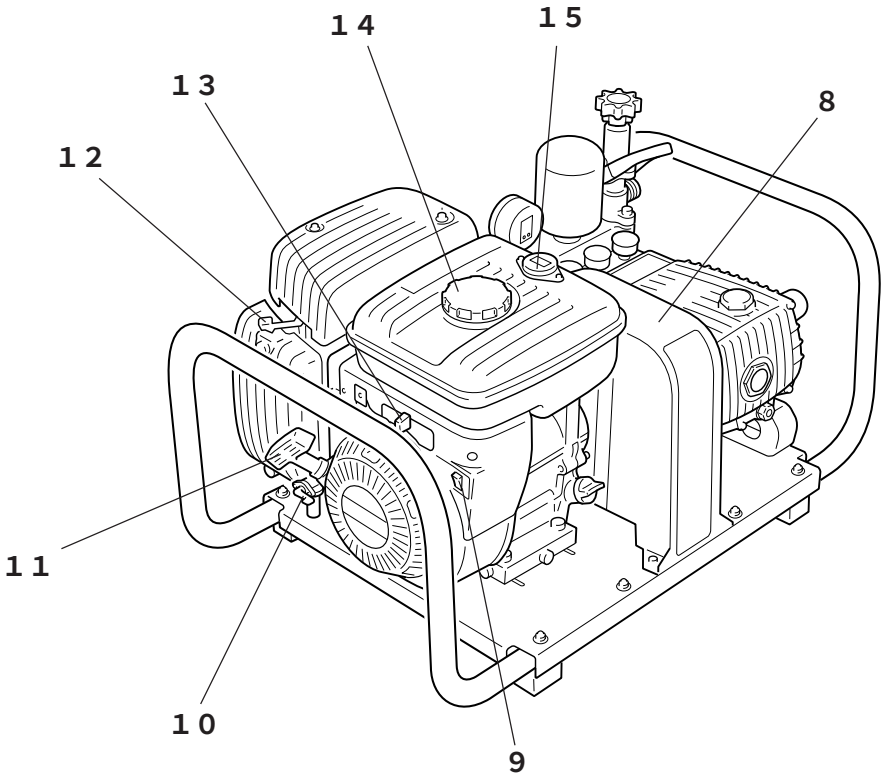
各部の名称（AHPE350B / AHPE450B）

動力噴霧機の各部の名称は２ページを参照してください。）

ＡＨＰＥ４５０Ｂの場合



AHPE350B/450B-01



AHPE350B/450B-02

各部の名称

１．ハンドル　——　移動の際、この部分を持ちます。
２．動力噴霧機（動噴）　——　薬液を吸込み、加圧し送り出します。
３．調圧ネジ　——　動力噴霧機の吐出圧力を調節するものです。
４．マフラカバー　——　消音器（マフラ）をカバーし、作業者が不用意に熱いマフラに触れるのを防ぎます。
５．エアクリーナカバー　——　エアフィルタを防護するカバーです。
６．エンジンオイルドレン　——　エンジンオイルを抜く所です。
７．エンジンオイル注油口　——　エンジンオイルを入れる所です。
８．ベルトカバー　——　作業者がＶベルトに触れることを防ぎます。
９．ストップスイッチ（エンジンスイッチ）　——　エンジンを停止するスイッチです。
１０．燃料コック　——　エンジンを使用するとき開き、終了時は閉じておきます。
１１．スタータグリップ　——　エンジンを始動するときに使用します。
１２．チョークレバー　——　冬期およびエンジンが始動しにくいとき使用します。
１３．スロットルレバー　——　エンジンの回転数を調節するレバーです。
１４．燃料タンクキャップ　——　燃料タンクを密閉するふたです。
１５．燃料レベルゲージ　——　燃料の残量がわかります。

警告表示ラベルの位置

動力噴霧機を搭載した製品の場合はラベル位置が異なったり、省略されていることがあります。

1.

⚠ 注 意

- 取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。
- 使用する農薬の取扱説明書をよく読んで正しく使用してください。
- 回転部には絶対に触らないでください。ケガをするおそれがあります。
- 原動機とセットするときはベルトカバーをつけてください。

890016-13950

2.

⚠ 警 告

必ず保護めがね防毒マスク保護衣を使用してください。農薬をあびるおそれがあります。

890084-00200

3.

⚠ 注 意

カバーをはずして運転しないでください。けがをするおそれがあります。

890016-01100

4.

⚠ 警 告

室内や換気の悪い場所での運転はやめてください。排気ガスが充満して人体に害をあたえます。

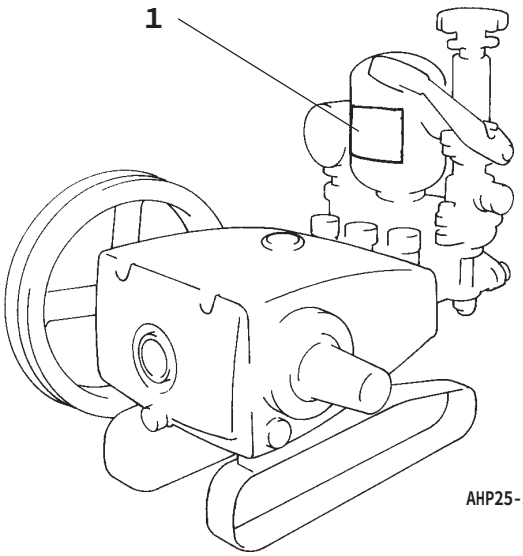
890084-00500

5.

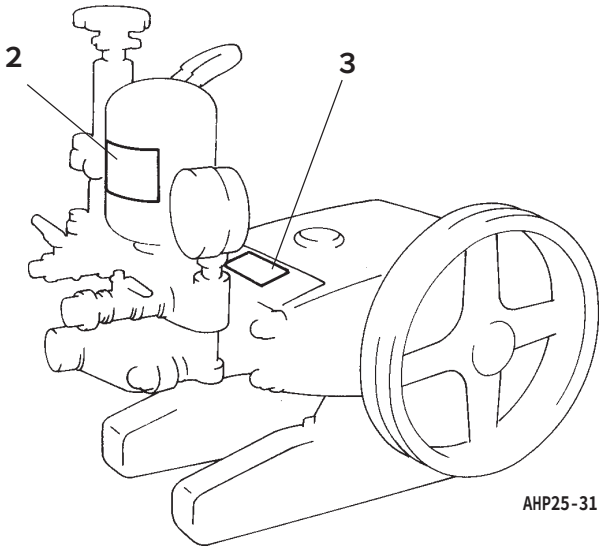
⚠ 注 意

点検整備のときはエンジンを停止してください。けがをするおそれがあります。

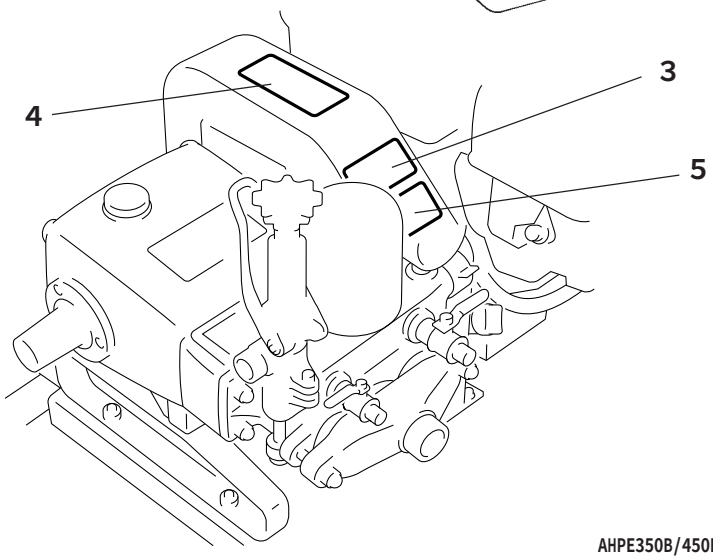
890016-02300



AHP25-30



AHP25-31



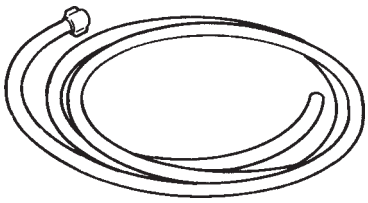
AHPE350B/450B-03

お客さまがご用意するもの

架台、エンジン、Ｖベルト、ベルトカバー
吐出または散布ホース、吐出または散布ホース用ネジ（１個）、ノズル、架台セット用ボルト（８本）

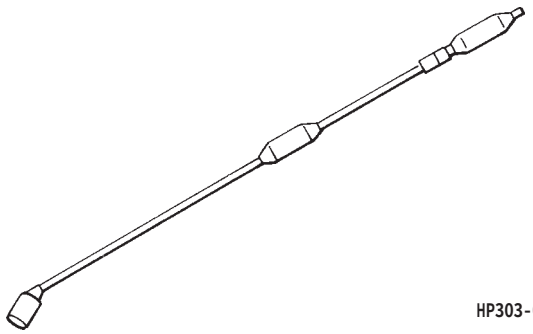
１．吐出または散布ホース　　２．ノズル
３．ベルトカバー　　４．Ｖベルト
５．エンジンプーリ　　６．エンジン
７．架台　　８．架台用ボルト（８本）
※　３～８はＡＨＰ２５Ｂ／３５Ｂ／４５Ｂの場合です。

１．



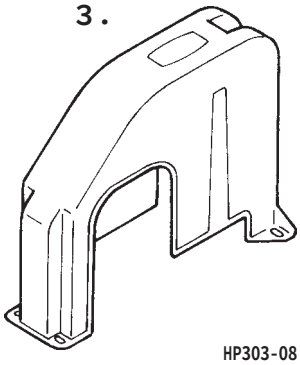
HP303-06

２．



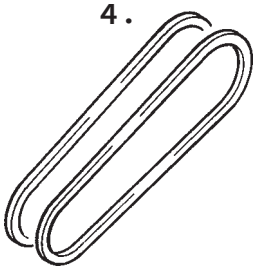
HP303-07

３．



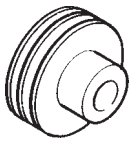
HP303-08

４．



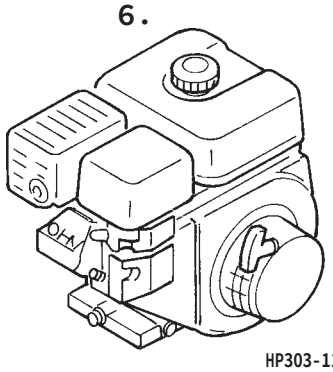
HP303-09

５．



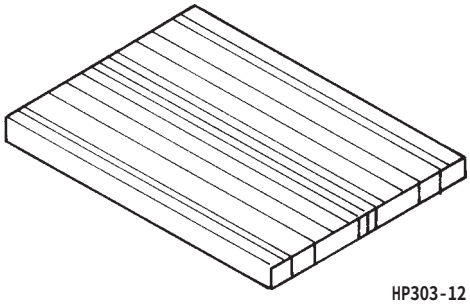
HP303-10

６．



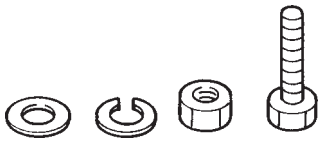
HP303-11

７．

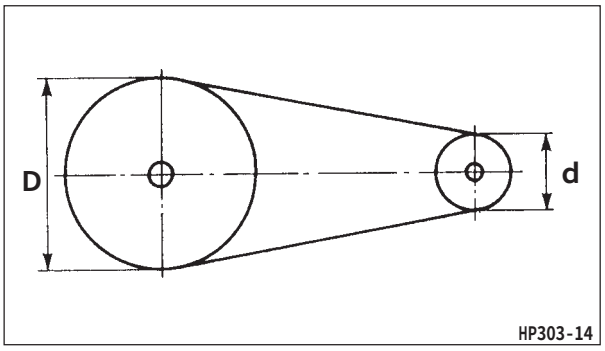


HP303-12

８．



HP303-13



エンジンと動力噴霧機の回転数とプーリの大きさについて

お持ちのエンジンまたはモータと動力噴霧機の回転数とプーリの直径が、以下の計算式にあてはまるか確認してください。

ｄ×ｎ＝Ｄ×Ｎ
ｄ＝エンジンプーリの直径
Ｄ＝動力噴霧機のプーリの直径
ｎ＝エンジンの回転数
Ｎ＝動力噴霧機の回転数

ノズルの選択について

ノズルの吐出量が動力噴霧機の吐出量より多いと適切な噴霧作業ができません。ノズルを選ぶときは仕様を確認し、余水ホースから戻る薬液量が全吐出量の１０％以上になるようにしてください。
ご不明な点は、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

正しい作業のために

⚠ 注　意

作業計画を立て、この取扱説明書を参照し、適切な部品を選んでください。作業に合わない部品を使うと、動力噴霧機が故障したりご利用になる方がケガをすることがあります。ご不明な点は、お買い求めの販売店へお問い合わせください。

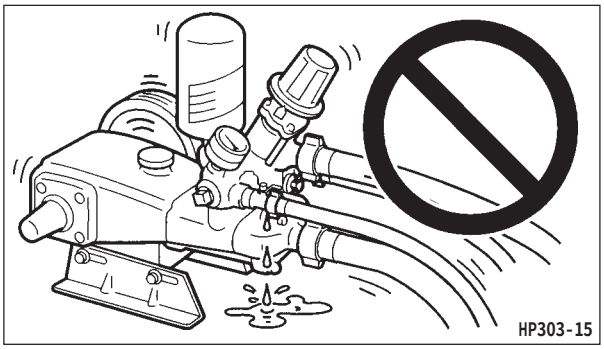
重　要

エンジンの種類、Ｖベルトの種類・長さ、吐出または散布ホース、ノズルは必要な動力、圧力により異なります。この動力噴霧機の仕様は一般農薬用です。特殊農薬や多種農薬混合を使用する場合は特殊ゴム（バイトン）仕様のパッキンを使ってください。ご不明な点は、お買い求めの販売店または農協へお問い合わせください。



からだの状態

● **病気のときや体調が悪いとき、妊娠中の場合、また､アルコールや体の機能に影響をおよぼす薬を飲んだときには作業を行なわないでください。**



作業前の点検

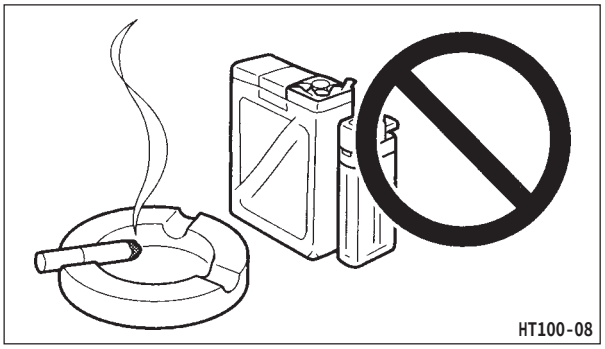
● **各部品がきちんと取付けられているか確認してください。ホースの取付けなど配管部が正しく締付けられていないと、空気の吸込みや内部液が漏れることがあります。**



● **子供が近くにいないことを確認してください。**



● 動力噴霧機を不安定な場所や転倒の恐れがある傾斜地に置かないでください。



⚠ 警　告

燃料を扱うときは、絶対にタバコを吸ったり、火気を近づけないでください。

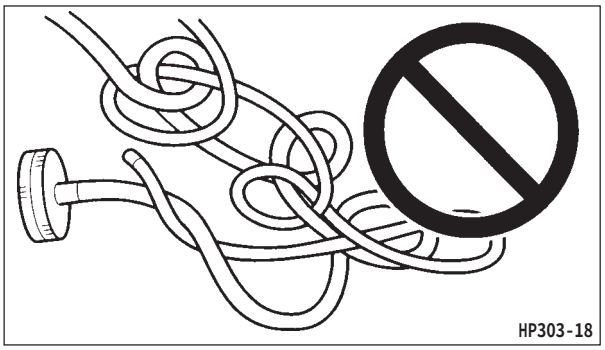
作業中の注意

重　要

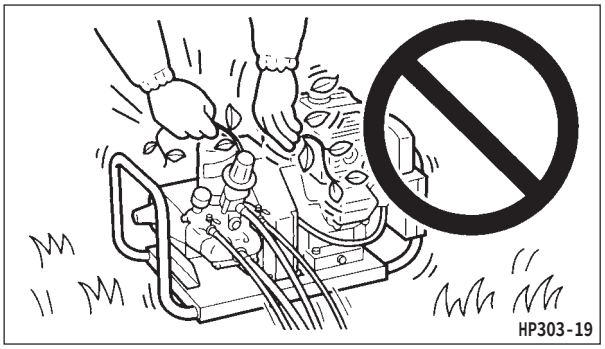
大型貯水槽や河川から吸水し、長時間使用するとエアチャンバの空気が水に溶け、抜けてしまうことがあります。動力噴霧機の故障の原因となりますので、２時間毎に必ず吸水ストレーナを水から出し、余水ホースから水が出なくなるまで運転してください。

重　要

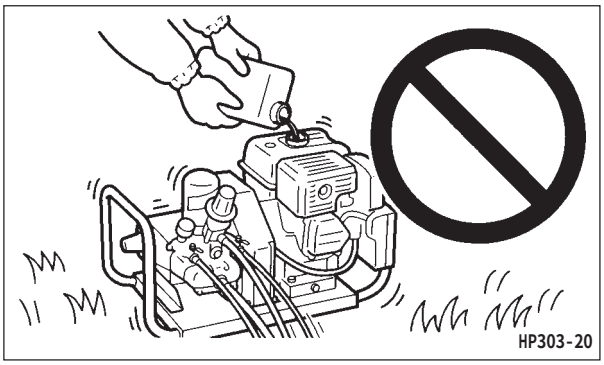
５分間以上、カラ運転を行なわないでください。動力噴霧機の寿命を縮め、故障の原因となります。



● ホースが絡まったり、ねじれたりしないように気をつけてください。

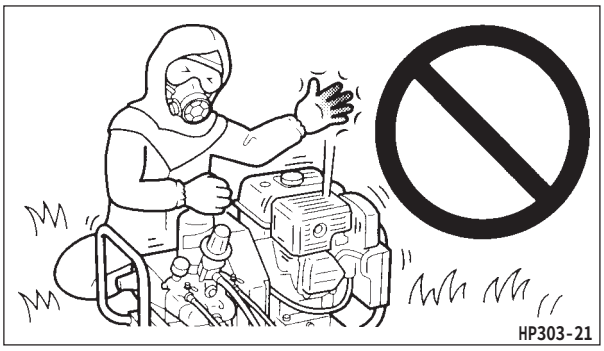


● 動力噴霧機やエンジンに絡み付いた草などを取除くときは、必ずエンジンを停止してください。

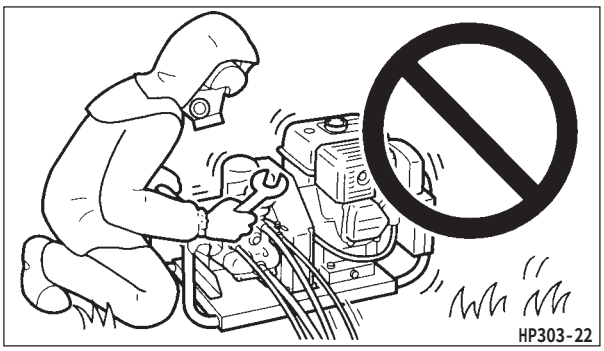


⚠ 警　告

- **燃料を補給するときは、必ずエンジンを停止してエンジンが冷えてから行なってください。**
- **燃料給油時はこぼさないように注意してください。（燃料タンクの口元まで給油しないでください。）燃料をこぼした場合は、すぐに拭き取ってください。**

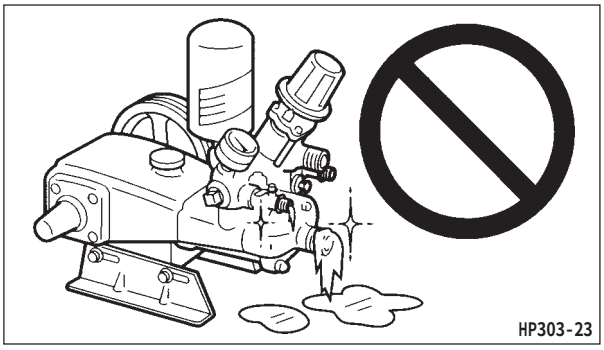


- **停止直後のエンジン、マフラは大変高温です。手を触れないようにしてください。**
- **運転中は回転している部品（Ｖベルトなど）や高温部（エンジン、マフラなど）に触れないようにしてください。**



保守・保管の注意

- **修理、清掃などの作業を行なうときは、必ずエンジンを停止してください。**

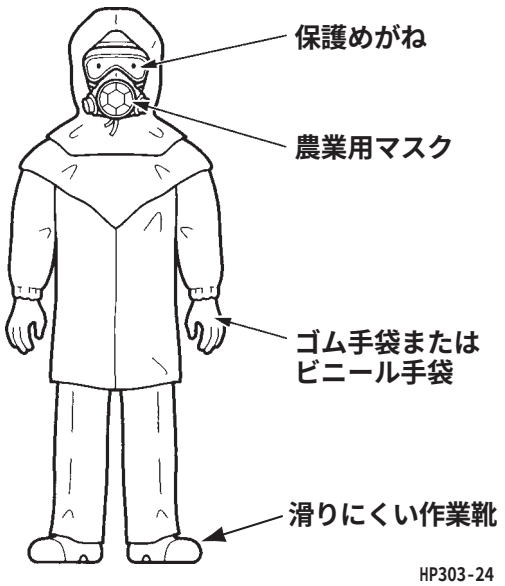


- **保管する前に必ず水を抜いてください。冬期には凍結することがあります。**

⚠ 注　意

農薬使用上の注意

- 散布時は、農業用マスク、手袋、長ズボン、長袖の作業衣などを着用してください。
  農薬に直接触れないよう注意してください。
- 作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに洗眼してください。
- 農薬が目に入らないように注意してください。
- 誤飲、誤食に注意してください。誤って飲み込んだ場合は、吐き出し、直ちに医師の手当てを受けてください。また、農薬使用中に異常を感じたときは、直ちに医師の手当てを受けてください。
- また、農薬の種類によっては、
  ☆農薬が目に入った場合は直ちに水洗し、眼科医の手当てを受けてください。
  ☆かぶれを生ずる場合がありますので注意が必要です。また、かぶれやすい人は、使用を控える必要があります。
- 環境へ配慮した使用が必要です。
  ☆防除対象作物以外への飛散がないよう注意してください。
- 農薬は、子供の手が届かない場所に保管してください。



重　要

薬剤は濃度が均等になるように溶かしてください。固まりが残ると、ノズルの目詰まりの原因となります。

農薬散布について

農薬使用上の留意点

- 農薬ラベルをよく読んでください。
  農薬の使用にあたっては、農薬ラベルに記載されている事項を確認してから使用してください。
- 農薬取締法が改正されました。
  平成１５年３月の農薬取締法改正にともなう省令に基づく使用基準により
  ①使用する作物に登録のある農薬を使用すること、②使用濃度（希釈倍率）および面積あたりの使用量、③収穫前使用日数、④使用回数の４点については農薬使用者が遵守する義務が生じています。

農薬散布前の注意

- 滑りにくい作業靴を履いてください。
  つま先のあいた靴、サンダル、はだしで散布作業を行なわないでください。
- 農薬を散布する場合、頭、足、その他の外部にさらされる部分を保護する衣服、保護具を身に付け、農薬が皮ふに触れないようにしてください。
- 農薬が浸透しない防水性に優れ、汗をかきにくい通気性のよい衣服を身に付けてください。
- 汗を拭いたり顔を洗うためにタオル、手ぬぐい、水などを用意してください。
- 作業を行なう場所をよく調べ、作業者以外の人、子供、家畜、養蚕、養蜂、他の作物などが近くにないことを確認してください。

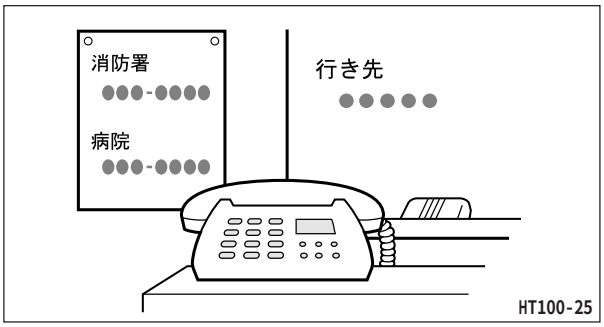
⚠ 警　告

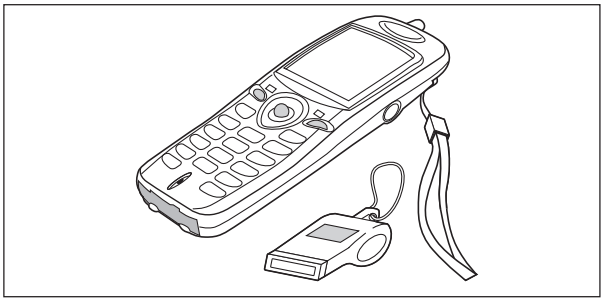
- **夜間や、視界が悪く暗い場所では、機械を絶対に操作しないでください。**
- **風が強いときには絶対に散布を行なわないでください。風向きが急に変わり、予期しない方向へ農薬が飛んでしまうことがあります。**











農薬散布中の注意

- **散布作業は、日中を避け、涼しい朝、夕方に行なうようにしてください。気温が上がると農薬が空気中に上昇したり、気化します。また、体力も余計に消耗してしまいます。**
- **農薬がからだにかかるのを避けるため、風下の方を向き、風を背中に受けるようにして、後ろ側へ進みながら散布してください。**
- **農薬の散布はたいへん体力を消耗します。長時間の作業は避け、２時間を限度としてください。**
- **作業をしながらタバコを吸ったり食べ物、飲み物をとったりしないでください。タバコ、食べ物に付着した農薬がからだの中にはいることがあります。**

農薬散布後の注意

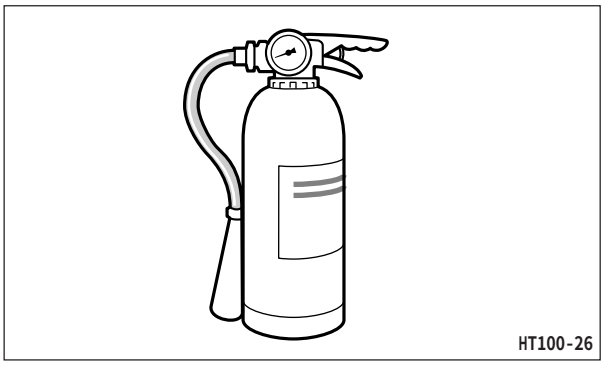
- **ハウス内で防除作業を行なったときは、農薬が乾くまでは立入禁止の表示を置いてください。**
- **作業中に着ていた服は、他の衣服とは別に洗ってください。**

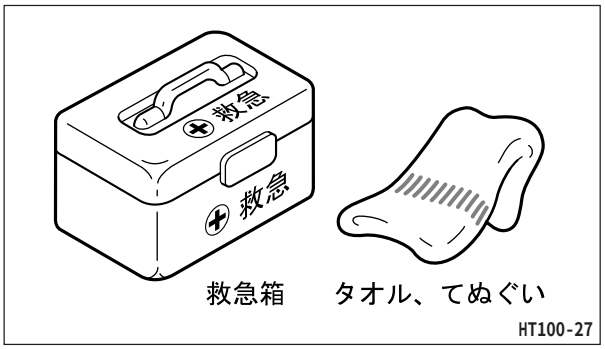
⚠ 警　告

作業中あるいは作業終了後、からだに異常を感じたときは、すぐに医師に相談してください。使用していた農薬の種類を告げてください。

万一の事故に備えて

- **作業の前に**
  - **万一の事故に備え、電話機のそばの目につきやすい場所に、医療機関、消防署（救急車）の電話番号を明確にしておいてください。**
    特に消防署への連絡の場合、救急車のための目標地点（住所、目標となる建造物など）も明確にしておくと、的確な連絡に役立ちます。
  - **単独で作業する場合、どこで作業を行なっているかが他の人にもわかるような方法（携帯電話を持つ、黒板に作業現場をメモするなど）を講じてください。負傷し動けなくなり帰れなくなった場合の対処として有効です。**
  - **作業現場には、呼子（笛）を携帯してください。**


HT100-26



救急箱　　タオル、てぬぐい
HT100-27

● 発火に対する備え

⚠ 警　告

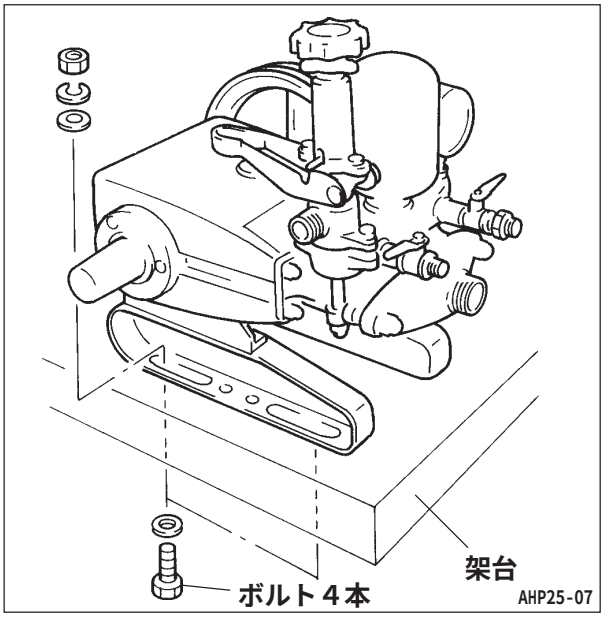
作業中、万一、エンジンから発火または排気口以外から発煙したら、まず機械から離れ、自分の身体の安全を確保してください。

・自分の身体を、火災その他の傷害から守るように注意してください。
草木などに類焼しないよう注意してください。
シャベルで砂などをかけるか、または消火器で消火してください。

● ケガへの備え

・万一のケガへの備えとして、応急手当用品の入った救急箱を用意してください。
出血をともなうケガについては、止血用に汗拭き用のタオルや、てぬぐいなども有効ですので、常時余分に作業現場へ携帯することをおすすめします。

運転前の準備

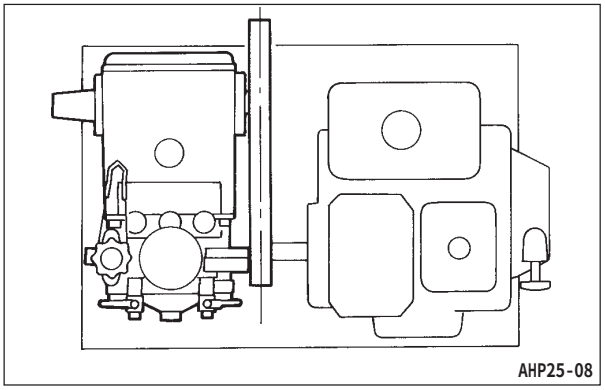


AHP25-07

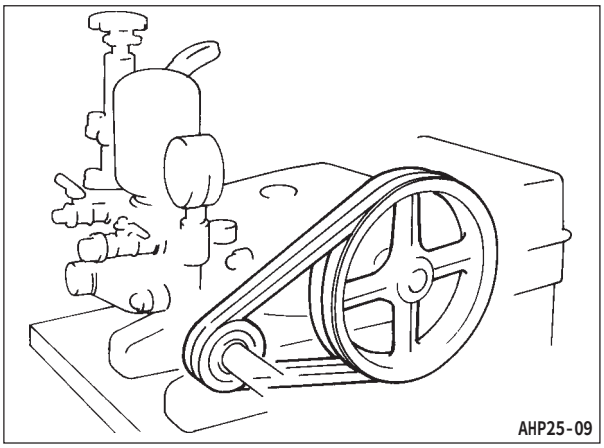
動力噴霧機とエンジンの取付け

※ ＡＨＰ２５Ｂ／３５Ｂ／４５Ｂの場合に行なってください。

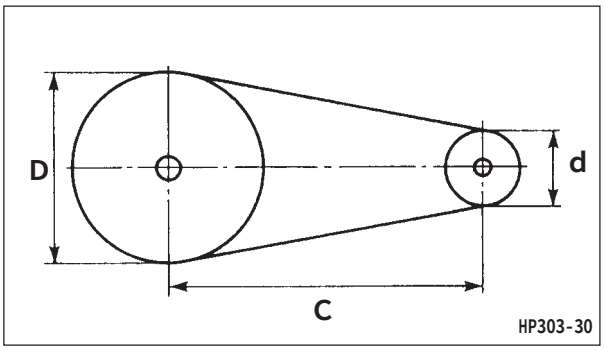
１．動力噴霧機をセット架台に４本のボルトで取付けてください。


AHP25-08

２．お持ちのエンジンを動力噴霧機とならべて取付けます。このとき、エンジンのプーリと動力噴霧機のプーリが一直線になるようにしてください。

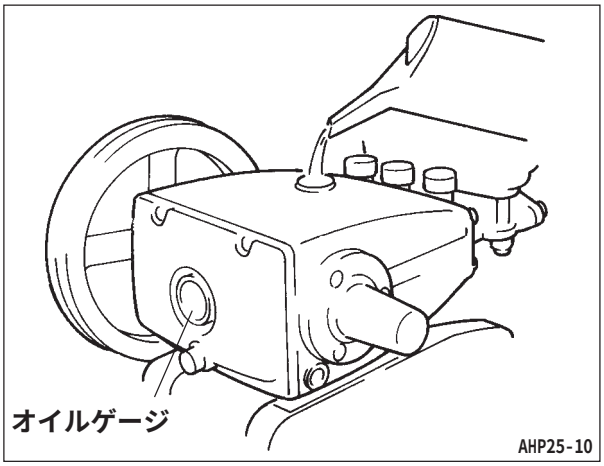


３．Ｖベルトをエンジンのプーリと動力噴霧機のプーリに取付けてください。



Ｖベルトの長さについて
Ｖベルトの長さは次のように計算してください。

ベルトの長さ＝（２×Ｃ）＋（３／２ｄ）＋（３／２Ｄ）
Ｃ＝軸間距離
ｄ＝エンジンプーリの直径
Ｄ＝動力噴霧機プーリの直径

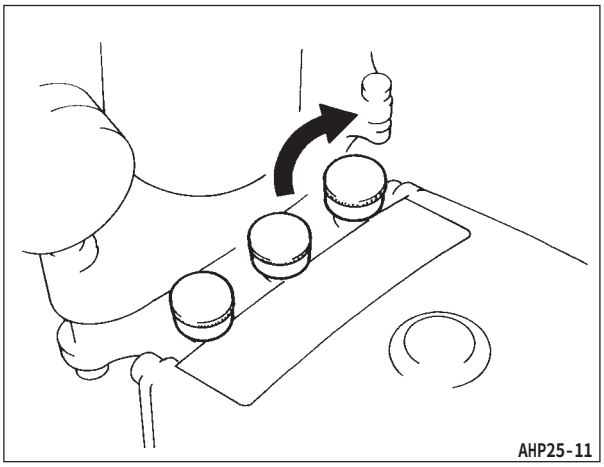


動力噴霧機の準備

● オイルの補給

１．クランクケース注油口のふたを取り、オイルゲージの中央にあるマークまでエンジンオイルを入れてください。エンジンオイルはＳＣ、ＳＤまたはＳＥ級、ＳＡＥ＃３０を使用してください。

重　要
マークより多く入れるとオイルが吹き出ることがありますので注意してください。

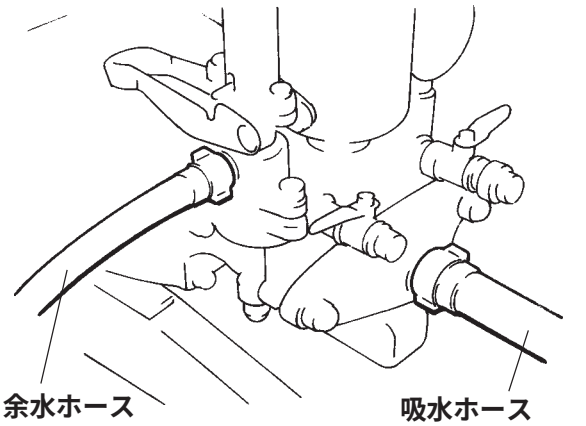


２．グリースカップを時計回りに１～２回まわして、Ｖパッキンへ給油してください。

ホースの接続

吸水ホースと余水ホースのネジは、機種によって同じものがあります。ストレーナが付くようになっているのが吸水ホースです。接続する前に確認してください。

AHP25B



AHP25-12

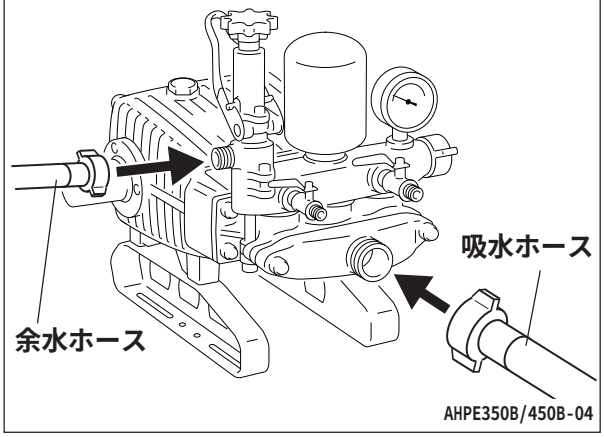
吐出口の継手ネジはＩＳＯ規格です。旧タイプのネジを使用する場合は、お買い求めの販売店へお問い合わせください。

１．吸水ホース、余水ホースをそれぞれ吸水口、余水口へ接続してください。
吸水ホースはエアを吸込まないよう、きちんと接続してください。

重　要

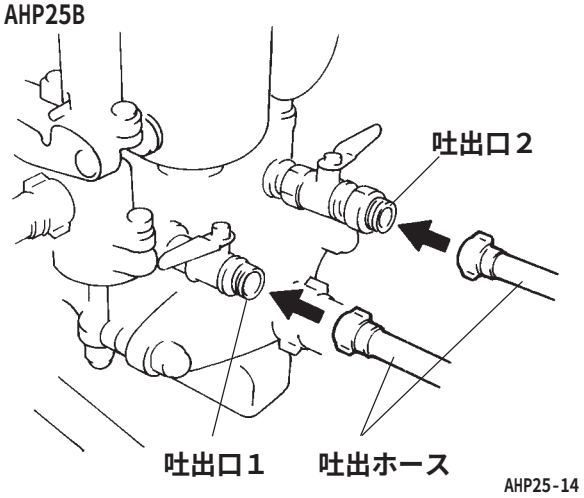
ホースを接続するときは、強く締めすぎないでください。パッキンが損傷することがあります。

AHP35B/AHP45B
AHPE350B/AHPE450B



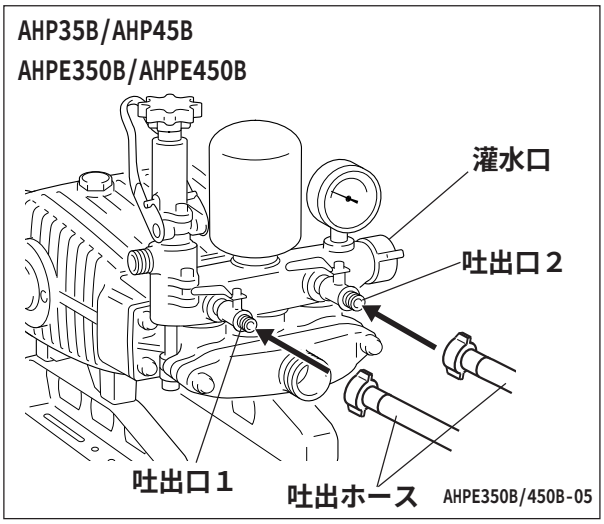
AHPE350B/450B-04

AHP25B



AHP25-14

２．お持ちの吐出または散布ホースを吐出口（１、２）に接続してください。



＊ＡＨＰ３５Ｂ、ＡＨＰ４５Ｂ、
ＡＨＰＥ３５０Ｂ、ＡＨＰＥ４５０Ｂは、
灌水口を使うことができます。



エンジンの準備

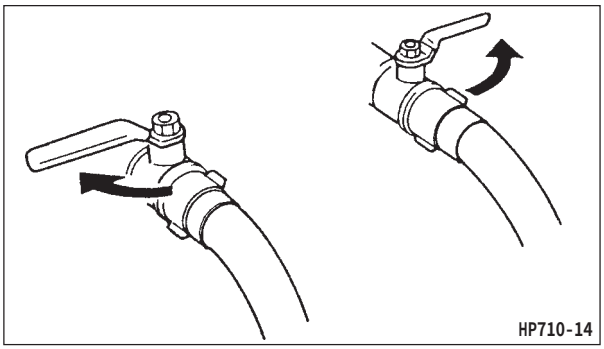
※ ＡＨＰ２５Ｂ／３５Ｂ／４５Ｂの場合は、お持ちのエンジンの取扱説明書を参照してください。

● オイルの補給

オイルゲージを外し、正規油面までエンジンオイルを入れてください。（正規油面の位置は左図を参照してください。）

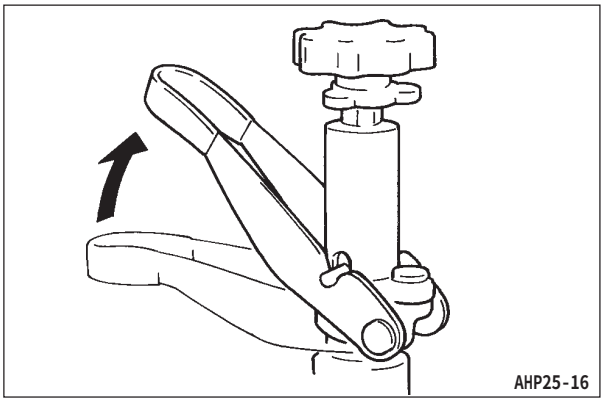
重　要
使用する前に必ずオイル量を点検し、正規油面までオイルを補充してください。

運　転



エンジンの始動まえに

１．吐出口のコックをすべて閉めておきます。



２．調圧レバーを立ててください。

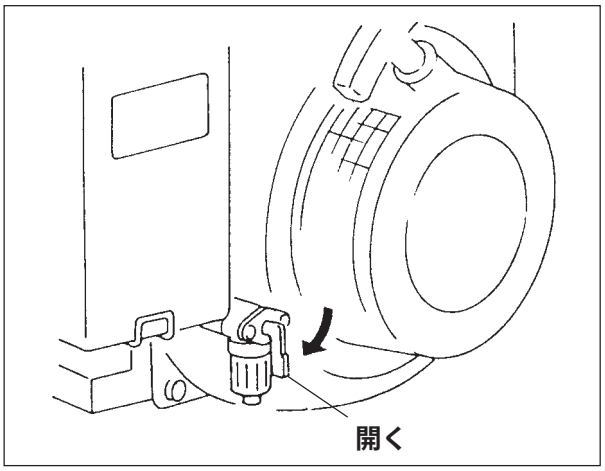
３．吸水ホースと余水ホースの先端を薬液の中に入れておきます。

エンジンの始動

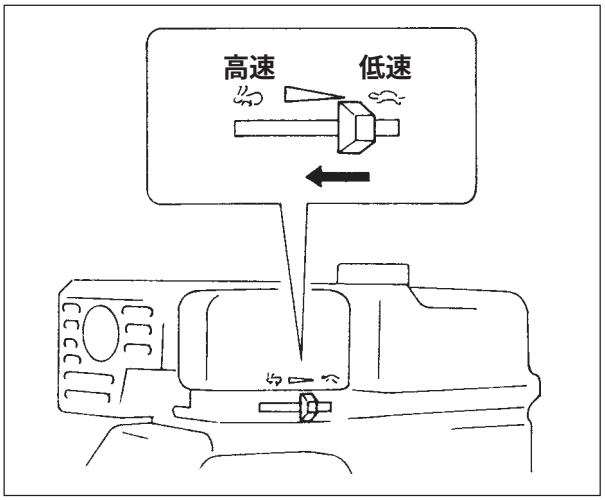
※ ＡＨＰ２５Ｂ／３５Ｂ／４５Ｂの場合は、お持ちのエンジンの取扱説明書を参照してください。

⚠ 警　告

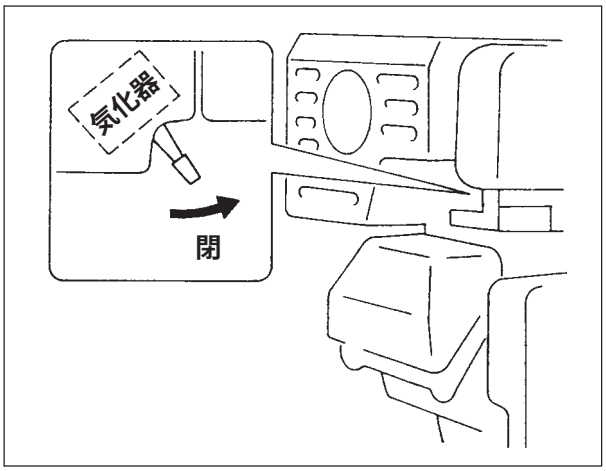
エンジンの排気ガスには、死に至る有毒なガスが含まれています。室内や通気の悪い場所でエンジンを始動しないでください。



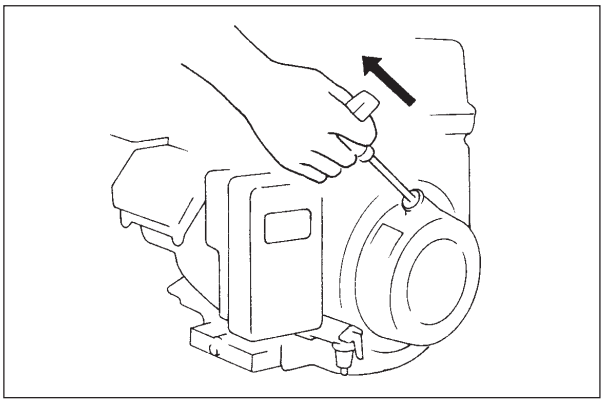
１．燃料のコックを開けてください。



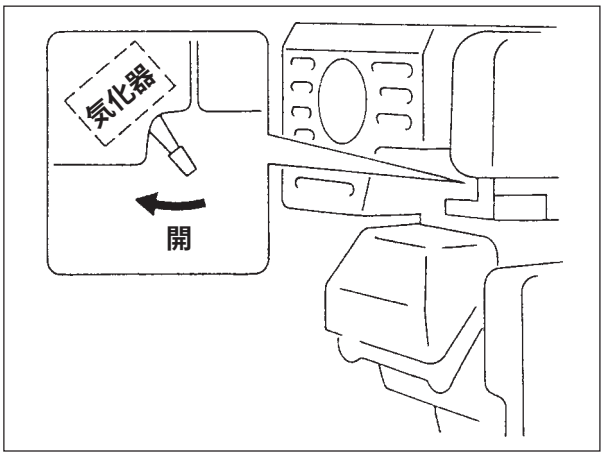
２．スロットルレバーを「高速」の方へ少し動かしてください。



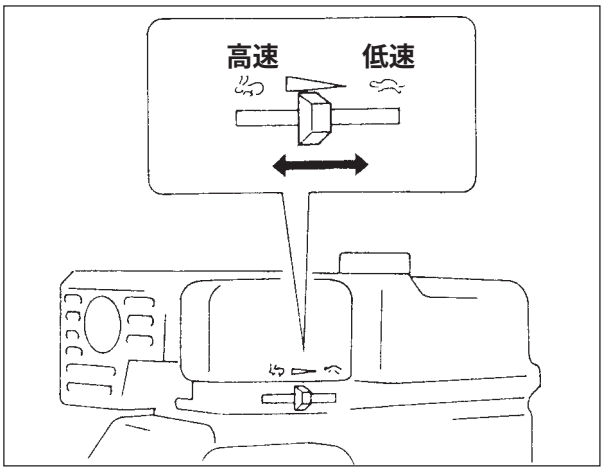
３．チョークレバーを「閉」へ動かしてください。



4．スタータグリップを握り、いきおいよく引いてください。



5．エンジンが始動したら、チョークレバーを「開」へ動かしてください。



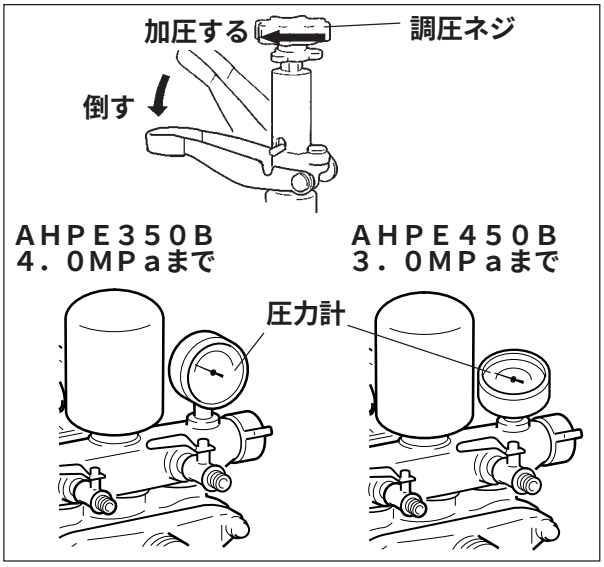
エンジンが始動したら

1．動力噴霧機が動き、動力噴霧機内に薬液が循環します。余水ホースからいきおいよく薬液が出ているのを確認してください。

2．スロットルレバーでエンジンの回転を調整してください。回転数を上げるときにはレバーを「高速」の方へ、下げるときには「低速」の方へ動かしてください。

※ ＡＨＰ２５Ｂ／３５Ｂ／４５Ｂの場合は、お持ちのエンジンの取扱説明書を参照してください。

3．調圧レバーを倒し、圧力計を見ながら必要な圧力まで調圧ネジを時計回りにまわしてください。調圧ネジを時計回りにまわすと圧力が上がり、反時計回りにまわすと圧力が下がります。



重　要

- ＡＨＰＥ３５０Ｂに搭載している動力噴霧機は、４．０ＭＰａ（４０ｋｇｆ／ｃｍ²）仕様です。
- ＡＨＰＥ４５０Ｂに搭載している動力噴霧機は、３．０ＭＰａ（３０ｋｇｆ／ｃｍ²）仕様です。
- 農薬を散布する場合は使用するノズルの仕様に合わせて圧力を調整してください。
  ただし、動力噴霧機の仕様を超える圧力には設定しないでください。

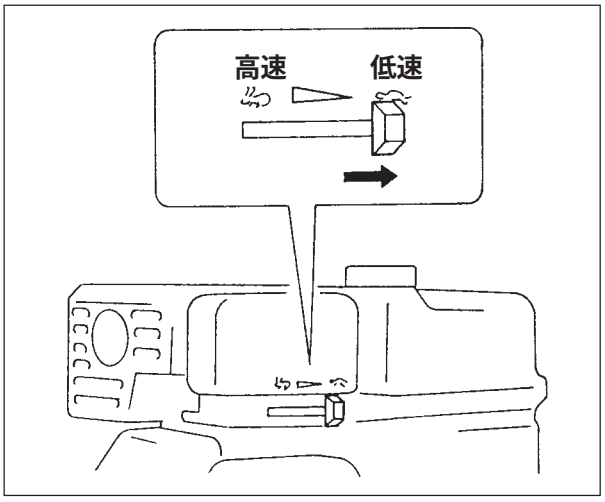
噴霧作業の開始・停止

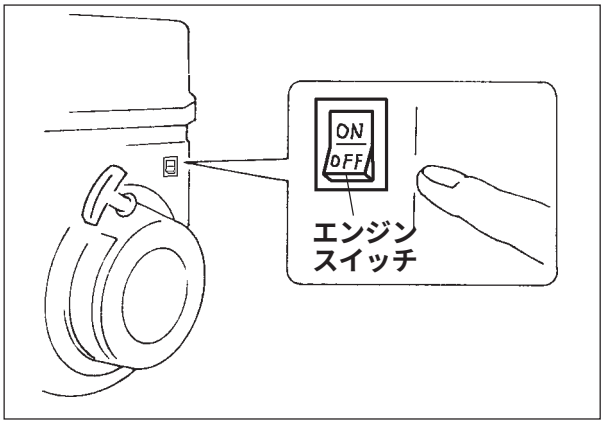
⚠ 注　意

- 動力噴霧機やエンジンに絡み付いた草などを取除くときは、必ずエンジンを停止してください。
- 燃料を補給するときは､必ずエンジンを停止して､エンジンが冷えてから行なってください。

重　要

- ５分間以上、カラ運転を行なわないでください｡動力噴霧機の寿命を縮め､故障の原因となります。
- ホースが絡まったり、ねじれたりしないように気をつけてください。
- 大型貯水槽や河川から吸水し、長時間使用するとエアチャンバの空気が水に溶け､抜けてしまうことがあります｡動力噴霧機の故障の原因となりますので､２時間毎に必ず吸水ストレーナを水から出し､余水ホースから水が出なくなるまで運転してください。





噴霧作業の開始

吐出コックを開いて噴霧作業を開始してください。

噴霧作業の停止

調圧レバーを立てて、ノズルコックと吐出コックを閉めます。

作業が終わったら

１．吸水ホースをきれいな水の中に入れて噴霧を行ない、動力噴霧機の内部、ホース、ノズルの清掃を行ないます。

２．動力噴霧機内の水を抜くため､調圧レバーを立てたまま､吸水ホースを水から出して余水ホースから空気が出るまで運転を続けてください。

重　要

カラ運転の状態となりますので、５分以上は行なわないでください。

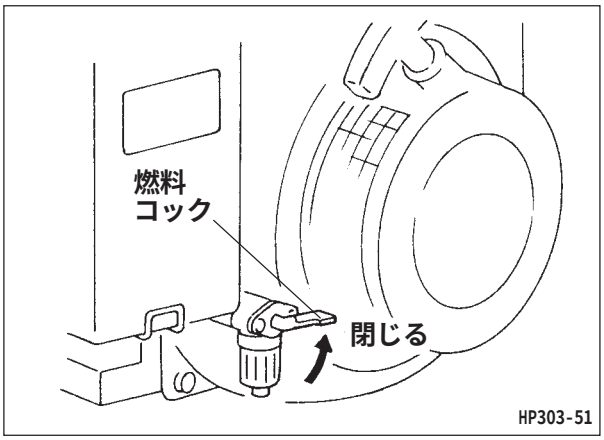
３．吸水ストレーナを次回の作業のため､充分に清掃してください。

エンジンの停止

※ ＡＨＰ２５Ｂ／３５Ｂ／４５Ｂの場合は、お持ちのエンジンの取扱説明書を参照してください。

１．スロットルを低速にします。

２．エンジンスイッチを､「ＯＦＦ」にしてください。



３．燃料コックを閉じます。

輸送・移動時の注意

動力噴霧機を輸送・移動するときには、以下の点を守ってください。

- 必ずエンジンを停止する。
- 使用後に輸送・移動するときには、エンジン、マフラが冷えるまで待つ。
- 燃料をカラにする。
- 動力噴霧機に衝撃をあたえないようにする。

点検・整備

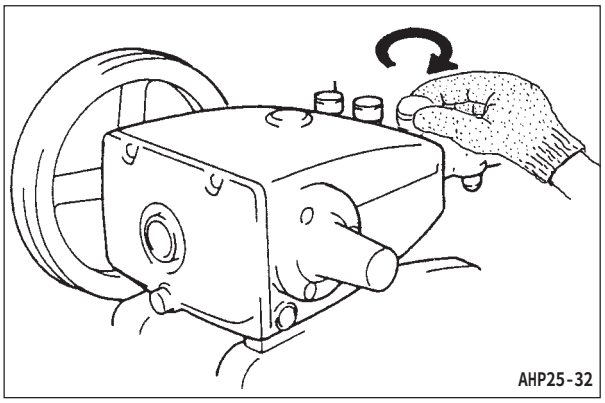
- 点検・整備は、充分な広さがあり、安定した場所で行なってください。
- タバコ、その他の火気は厳禁です。

部 品 名	整備内容	整 備 時 期
グリースカップ	給油	５～１０時間使用毎
クランクケース	オイル交換	初回は５０時間使用後、以降１００時間毎
調圧ネジ部	給油	使用時期前
調圧レバーの周り	給油	使用時期前
Ｖパッキン	点検・交換	使用時期前
継手パッキン	点検・交換	毎年
Ｖベルト	点検・交換	使用時期前

※ ＡＨＰ２５Ｂ／３５Ｂ／４５Ｂの場合は、お持ちのエンジンの取扱説明書を参照してください。

重　要

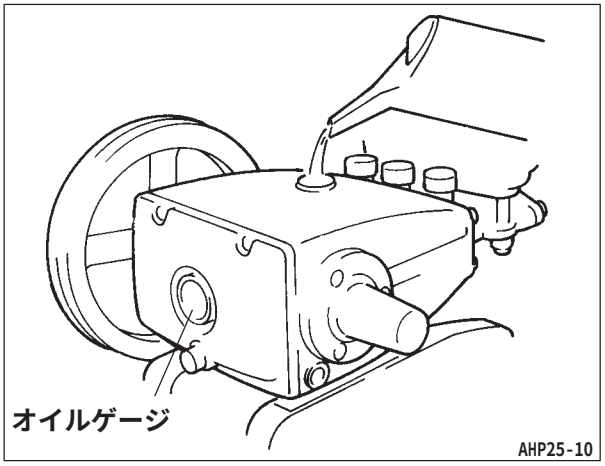
- この表の期間に従って整備･点検を行なってください。ただし、実際の使用条件や使用回数により必要と判断した場合は、整備・点検の回数を増やしてください。
- 毎月、毎年の整備・点検を行なった日付を記録してください。
- １年に１回以上は、お買い求めの販売店に、定期点検を依頼してください。



プランジャ部分の給油

（５～１０時間使用する毎に行なってください。）

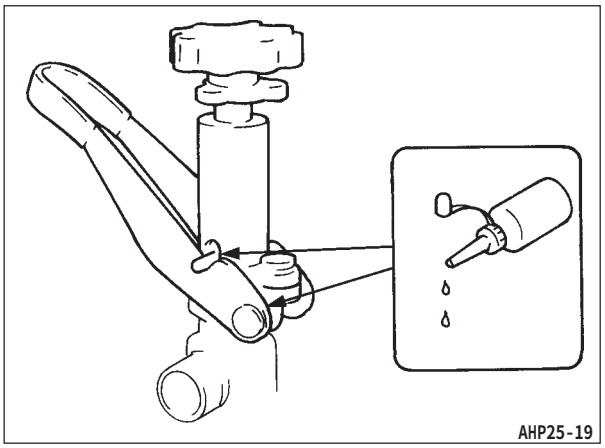
グリースカップを時計回りに１～２回まわして給油してください。



クランクケースのオイル交換

（最初は５０時間使用した後に、それ以降は１００時間使用する毎に行なってください。）

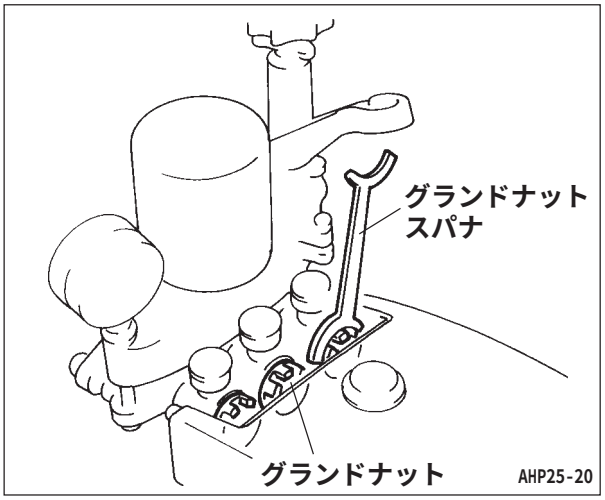
クランクケースのオイルはＳＣ、ＳＤ、またはＳＥ級、ＳＡＥ＃３０を使用して交換してください。



調圧ネジ部、調圧レバーの周り

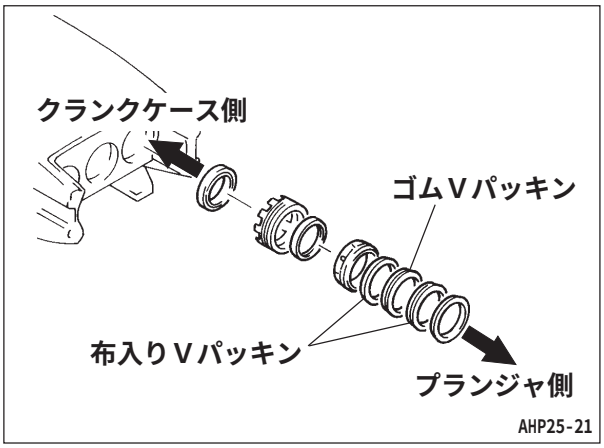
（使用時期前に行なってください。）

お手持ちのオイラなどで給油してください。



Ｖパッキン

Ｖパッキンの締付けがゆるく水が漏れたときは、グランドナットを付属のグランドナットスパナで締付けてください。それでも水が漏れるときは、新しいＶパッキンと交換してください。

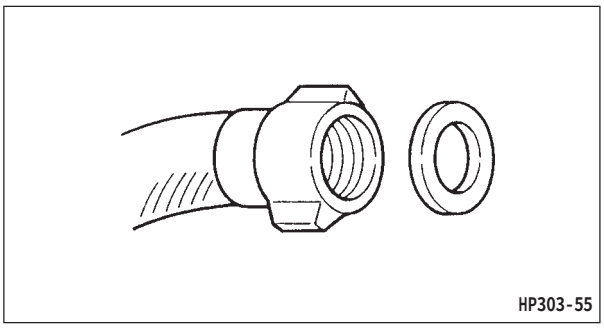


AHP25-21

長時間使用し、吸水しなくなったり、圧力が上がらなくなったときはＶパッキンが摩耗している可能性があります。シリンダを外し、Ｖパッキンを交換してください。

重　要

水シールが高圧形のため、２種類のＶパッキン（布入りＶパッキン、ゴムＶパッキン）を使用しています。交換の際は組付ける順序と組付け方向（パッキンのＶ溝をプランジャ側に向ける）を間違えないようにしてください。（左図参照）


HP303-55

継手パッキン

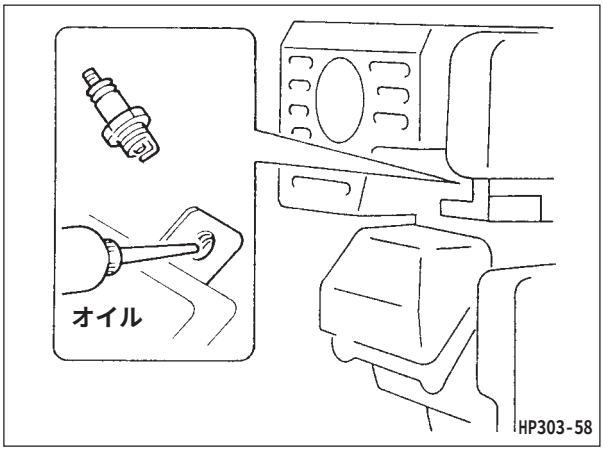
（毎年、使用する前に点検してください。）

点検し、損傷、摩耗していたら交換してください。

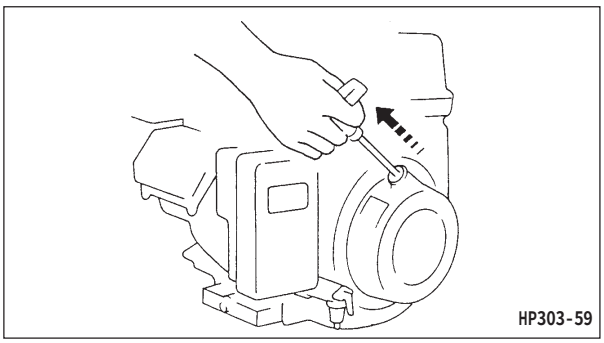
長期保管

重　要

冬期間、水が凍結する恐れのある地域では必ず水抜きを行なってください。



HP303-58


HP303-59

長期保管する前には必ず以下の手順に従ってください。

水抜き

きれいな水を数分間噴霧し、配管内各部を洗浄してください。吸水ホースを外して完全に水抜きしてください。

エンジン

※ ＡＨＰ２５Ｂ／３５Ｂ／４５Ｂの場合は、お持ちのエンジンの取扱説明書を参照してください。

- エンジンを３０日以上使用しない場合は、燃料コックより燃料を抜いてください。また、エンジン内部に残っている燃料は、低速で運転して使いきってください。
- スパークプラグを外してシリンダ内にエンジンオイルを小量（約１０㎖）注入してください。
- 数回クランク軸を回転させてからピストンを上死点まで動かしてください。その後スパークプラグを取付けてください。（スパークプラグキャップは外しておいてください。）

保管場所

動力噴霧機は以下のような場所に保管してください。

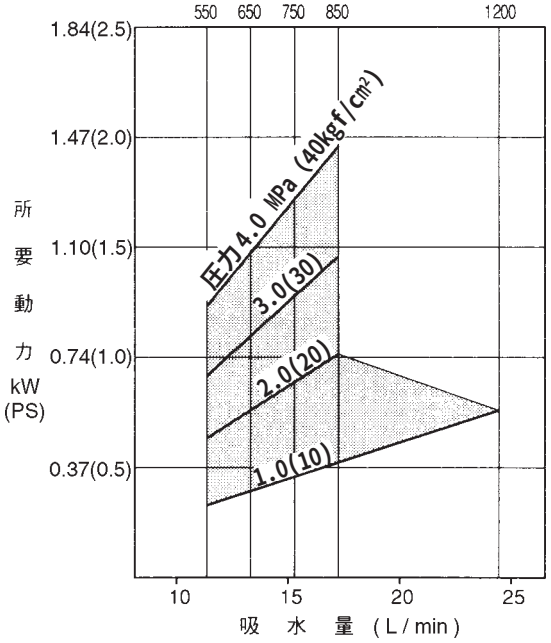
- 直射日光、熱、火気にさらされない。
- 湿気、ホコリが少ない。
- 安定している。

ご利用の手引き

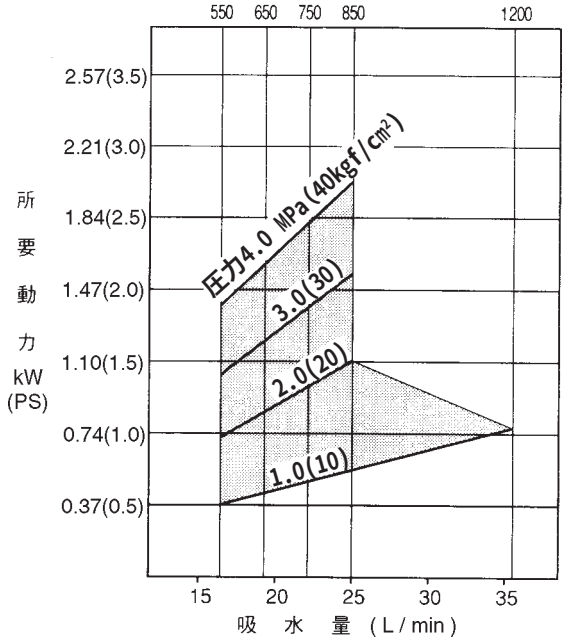
この動力噴霧機の性能曲線

ご使用時には各形式とも図の性能曲線の下側 ▭ 部分でお使いください。

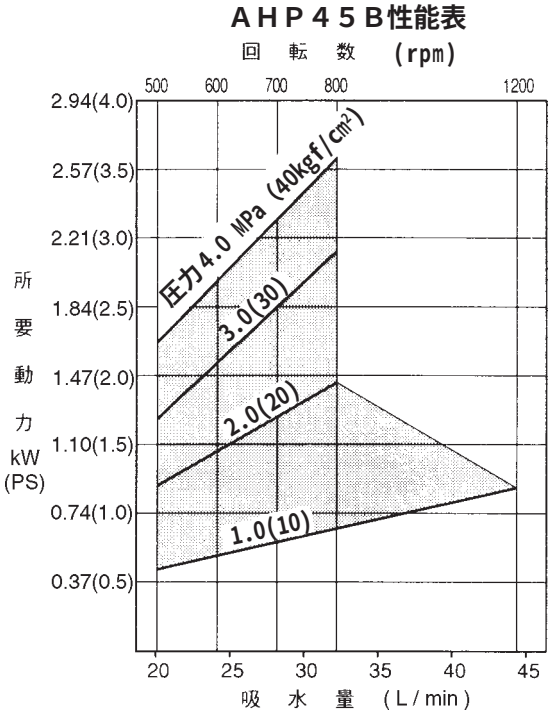
ＡＨＰ２５Ｂ性能表



ＡＨＰ３５Ｂ性能表

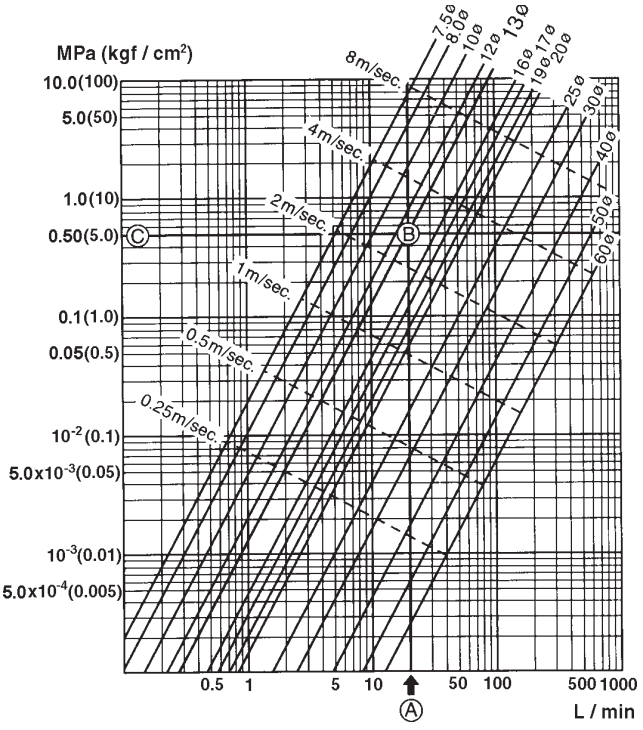


ＡＨＰ４５Ｂ性能表



▭ **：使用範囲**

吐出または散布ホース長さによる先端の圧力降下図表の見方



※ このヘッドロス図表はホース１００ｍが基準です。

例　内径１３㎜のホース１００ｍを使用し毎分２０Ｌの水を流した場合の圧力降下を調べる場合は

Ⓐ ２０Ｌの縦線を上方へ上がってゆく。

Ⓑ 斜線の１３φの線を出し降下圧力を読みとる。

Ⓒ この交点より横に線を出し降下圧力を読みとる。

従ってこの場合の降下圧力は約０．５MPa（約５．０kgf/cm²）となる。

〈計算式〉

$$h = f \frac{V^2}{2g} \cdot \frac{100}{D}$$

ｆ＝摩擦損失係数：０．０２

Ｖ＝流速（m/s）

ｇ＝重力加速度９．８（m/s²）

Ｄ＝パイプ内径（m）

ｈ＝１００m当たりの圧力損失水頭（m）

一般に圧力の降下は‥‥

① 流速の二乗に比例する。
流速はホース断面積に反比例する。

② 長さに比例する。

以上の外、ホース内面が粗い程大きく、コック、ホース継手でも圧力降下がある。

ホース１００ｍ当たりの圧力降下・MPa(kgf/cm²)

		ホース内径(mm)　呼び					
		8.5 (2分5厘・5/16")	10 (3分・3/8")	13 (4分・1/2")	16 (5分・5/8")	19 (6分・3/4")	25 (インチ・1")
流量 (L/min)	5	0.25(2.5)	0.12(1.2)				
	10	1.10(11.0)	0.45(4.5)	0.14(1.4)	0.05(0.5)	0.02(0.2)	
	15	2.20(22.0)	0.90(9.0)	0.25(2.5)	0.09(0.9)	0.04(0.4)	
	20		1.80(18.0)	0.50(5.0)	0.19(1.9)	0.08(0.8)	0.02(0.2)
	30			1.30(13.0)	0.40(4.0)	0.18(1.8)	0.04(0.4)
	40			2.20(22.0)	0.72(7.2)	0.32(3.2)	0.07(0.7)
	50			3.40(34.0)	1.20(12.0)	0.48(4.8)	0.13(1.3)
	60				1.70(17.0)	0.70(7.0)	0.17(1.7)
	80				2.80(28.0)	1.30(13.0)	0.30(3.0)
	100						0.45(4.5)
	150						0.90(9.0)

吐出し揚程による圧力降下

上記ホースによる圧力降下のほかに動力噴霧機の置かれている場所とノズルで散布している場所の高さの差（揚程：Ｈ）によっても圧力降下が加算されます。

〈計算式〉

$$P = \frac{H}{102} \qquad P' = \frac{H}{10}$$

Ｐ＝高さの差による圧力降下：MPa

Ｈ＝高さの差：m

Ｐ'＝高さによる圧力降下：kgf/cm²

故障対策

● 使用中に不具合が起きたときには次の表に従って調査の上対策を施してください。

● ご不明の点については、お買い求めの販売店へご相談ください。

不具合事項	原　因	対　策
吸水しない、または途中から吸水しなくなった。	1）吸水ホースが破損しているか折れている。 2）吸水ホースとニップルとの締付不良またはパッキンの脱落。 3）吸水ストレーナが液面に浮上がっている。 4）吸水ストレーナの周りにゴミが付着している。 5）吸・排水弁に砂、ゴミが付いている。 6）吸・排水弁が摩耗している。 7）吸・排水弁が固着して作動しない。 8）Ｖパッキンが摩耗して空気を吸っている。 9）シリンダ､弁室の締付ナットがゆるんで合わせ面から空気を吸っている。 10）一旦空気を吸込み、調圧弁が加圧状態のままである。	● 破損していたら交換する｡折れていたらのばす。 ● パッキンが入っていることを確かめてから充分締めなおす。 ● 浮上がらないよう固定する。 ● ゴミを除き清水でよく洗う。 ● よく洗い落とす。 ● 摺合わせをするか新品と交換する。 ● 弁と弁座の合わせ面をきれいに洗う。 ● 新品と交換する。 ● ナットを交互に増し締めする。 ● 調圧レバーを上げる。
余水から気泡が出る。	1）吸水ホースの取付ネジがゆるんでいる。 2）吸水ホース用パッキンがすり切れている。 3）吸水ホースに穴があいている。 4）シリンダ､弁室の締付ナットがゆるんでいる。 5）Ｖパッキンの締付けがゆるい。	● パッキンが入っていることを確かめてから充分締めなおす。 ● 新品と交換する。 ● テープなどを巻いて穴をふさぐか､新品と交換する。 ● ナットを交互に増し締めする。 ● グランドナットを増し締めする。
圧力が上がらない。	1）圧力計の入口孔をゴミでふさいでいる。 2）調圧弁、調圧弁座の合わせ面にゴミが付いている。 3）調圧弁、調圧弁座が甚しく摩耗している。 4）ノズルからの噴霧量が多く余水がない。 5）圧力計が破損している。	● よく掃除する。 ● よく洗い出す｡(弁座は裏･表の両面とも使用できます｡) ● 新品と交換する。 ● 全吐出量の１０%以上を余水へ戻すようノズルを替える。 ● 新品と交換する。

不具合事項	原　因	対　策
圧力計のフレが大きい。	1）吸水ストレーナの周りにゴミが付着している。 2）吸水ホースが折れている。 3）吸･排水弁のいずれかに不具合がある。 4）調圧弁､調圧弁座にゴミが付いている。 5）調圧弁、調圧弁座に傷がある。 6）Ｖベルトがスリップしている。 7）エンジンの回転にムラがある。 8）空気を吸込んでいる。 9）エアチャンバ内の空気が抜けきってエアクッションがなくなっている。	● ゴミを除き清水でよく洗う。 ● 折れをなおす。 ● 分解して点検交換をする。 ● よく洗い落とす。 ● 摺合わせをするか新品と交換する。 ● ベルトを張りなおす。 ● エンジンを調整する。 ● ホース金具などを締めなおす。ホースパッキンを確認する。 ● 吸水ストレーナをタンクから取出し､余水ホースから水が出なくなるまで空気を吸わせる。
圧力を調整したのち噴霧を始めると圧力の降下がはげしいとき。	1）下記のいずれかが原因で余水量が吸水量の１０%以下である。(吐出過多) (a) 動噴回転数が不足している。 (b) 噴口が摩耗して噴霧量が多すぎる。 (c) 噴頭数が多すぎる。 2）調圧弁抑えの動きが悪い。 3）調圧弁、調圧弁座が甚しく摩耗している。	● 回転を上げる。 ● 新品と交換する。 ● 数を減らす。 ● 分解して掃除をする。 ● 新品と交換する。
クランク室内で異常な音がする。	1）連接棒の締付ボルトがゆるんでいる。 2）プーリと「キー」とにガタがある。 3）クランク室内の部品が脱落破損している。 4）ベアリングが破損している。 5）コンロッド小端部のプランジャピンが摩耗している。	● 増し締めする。 ● 交換する。 ● 点検補充または交換する。 ● 交換する。 ● 新品と交換する。
クランク室内に薬液が入る。	1）プランジャ用オイルシールの不良。 2）プランジャの不良。	● 新品と交換する。 ● 新品と交換する。
プランジャ部分より水漏れする。	1）Ｖパッキンの締付がゆるい。 2）Ｖパッキンが摩耗している。 3）プランジャが摩耗している。または条痕の傷がある。 4）グリースがなくなっている。	● グランドナットを締めこんでＶパッキンを締付ける。 ● 新品と交換する。 ● 新品と交換する。 ● グリースカップにグリースを補給しカップふたを1～2回まわして給油してください。
圧力は下がらないがノズルからの量が少ない。	1）吐出または散布ホースが長すぎる。 2）吐出または散布ホースが細すぎる。	● ホースを短くする。(圧力降下表２５ページ参照) ● ホースを太くする。(圧力降下表２５ページ参照)

仕　様

項　目		単 位	AHP２５B				AHP３５B				AHP４５B			
長さ×幅×高さ		mm	360 × 265 × 320				390 × 292 × 320				427 × 292 × 320			
質　量		kg	8.3				11.5				12.5			
プランジャ	数	－	3											
	ｽﾄﾛｰｸ×直径	mm	18 × φ 22				16 × φ 28				19 × φ 30			
		－	噴　霧			灌 水	噴　霧			灌 水	噴　霧			灌 水
回 転 数		rpm	550	750	850	1200	550	750	850	1200	500	700	800	1100
吸 水 量		L/min	11.2	15.4	17.4	24.6	16	22	25	35	20.4	28.5	32	44.5
所要動力	4.0 MPa (40kgf/cm²)	kW (PS)	0.95 (1.3)	1.25 (1.7)	1.40 (1.9)	圧力 1.0 MPa	1.32 (1.8)	1.76 (2.4)	1.98 (2.7)	圧力 1.0 MPa	1.69 (2.3)	2.28 (3.1)	2.50 (3.4)	圧力 1.0 MPa
	3.0 MPa (30kgf/cm²)	kW (PS)	0.74 (1.0)	0.96 (1.3)	1.10 (1.5)	(10kgf/cm²) 以下	1.03 (1.4)	1.40 (1.9)	1.62 (2.2)	(10kgf/cm²) 以下	1.32 (1.8)	1.84 (2.5)	2.06 (2.8)	(10kgf/cm²) 以下
調 圧 弁		－	セラミック円錐弁											
潤滑油容量		L	0.7				0.9							
標準プーリ径		mm	180（7インチ）A 2											
吐出	口 径	mm	8.5 × 2ケ				8.5，10各1ケ							
	継手ねじ	ねじの呼び	PF1/4 × 2ケ				PF1/4，PF3/8各１ケ （灌水口:ねじの呼び PF1）							
吸水	ホース	φ mm × m	19 × 3				21 × 3							
	継手ねじ	ねじの呼び	PF3/4				PF1							
余水	ホース	φ mm × m	13 × 3								19 × 3			
	継手ねじ	ねじの呼び	PF1/2								PF3/4			

この仕様は予告なしに変更することがあります。

項　目		単 位	AHPE350B	AHPE450B
長さ×幅×高さ		mm	675 × 430 × 390	
質　量（乾燥）		kg	31.6	31.7
動力噴霧機	型　式	―	AHP35B	AHP45B
	回転数	rpm	770	780
	常用圧力	MPa(kgf/cm²)	4.0(40)	3.0(30)
	吸水量	L/min	22	31
エンジン	型　式	―	三菱　GM132LN	
	形　式	―	空冷４サイクル傾斜形横軸ＯＨＶガソリンエンジン	
	排気量	mL	126	
	最大出力	kW(PS)	2.94(4.0);4000 r/min時	
架　台		材質	アルミ押し出し成形材（表面アルマイト処理）	
ハンドル		材質	アルミ冷間引抜パイプ（表面アルマイト処理）	

この仕様は予告なしに変更することがあります。

株式会社やまびこ

〒198-8760 東京都青梅市末広町 1-7-2　Tel 0428-32-6181

やまびこ北海道株式会社
〒004-0041　北海道札幌市厚別区大谷地東 1-2-20　Tel 011-891-2249（代）

やまびこ東北株式会社
〒984-0002　宮城県仙台市若林区卸町東 5-1-50　Tel 022-288-0511（代）

やまびこ東部株式会社
〒198-0025　東京都青梅市末広町 1-7-2　Tel 0428-32-1091（代）

やまびこ中部株式会社
〒452-0031　愛知県清須市西枇杷島町宮前 1-39　Tel 052-502-4111（代）

やまびこ西部株式会社
〒701-0221　岡山県岡山市南区藤田566-159　Tel 086-296-5911（代）

やまびこ九州株式会社
〒816-0943　福岡県大野城市白木原 5-3-7　Tel 092-573-5361（代）

やまびこレンテックス株式会社
〒198-0025　東京都青梅市末広町 1-7-2　Tel 0428-32-6777（代）

ご用命の際はお買い上げいただいた販売店へご連絡ください。

898 512-1395 6
X750 601-020 7
1103qe 2291 ES

© 2000 株式会社やまびこ　著作権法により無断での複製、転載などは禁止されております。